

盆栽と中野家について

大広間内にて5 / 18(金)から5 / 20(日)まで第3回 中野邸 山野草・盆栽雅展、
6 / 1(金)から6 / 3(日)第4回 中野邸 さつき雅展を行いました。

盆栽の「盆」は鉢の意味、「栽」は鉢の中で育てられる植物の意味です。

盆栽は現在世界各国に愛好家が広がり「BONSAI」という世界共通語になって
おります。盆栽が生まれたのは中国といわれており、唐の時代には「盆景」などと
呼ばれていました。わが国では平安時代には伝わり、鎌倉時代には文献に盆栽の表
記があります。その後茶の湯文化などとともに室町時代頃から栄え、江戸時代には、
大名などの特権階級だけでなく、町人にまで広く親しまれるようになりました。

現在のような自然美盆栽の様式が定着したのは明治期以降といわれています。植物
自体の姿に日本の風土や自然観を見出し、姿を整える技法は日本独自のものであり、
千年以上の時を経て、日本の伝統園芸文化として発展してきたものです。

昭和の初めには盆栽が広く社会全般に広がり、政財界の蒼々たる著名人の多くが盆
栽を趣味としていた時期でした。昭和9年から現在まで続く「国風盆栽展」の第一
回目が開催されています。当時の代表的蒐集家が中野忠太郎で、当時の日本の盆栽
名品の6割を所有するとまで言われておりました。当時所有していた盆栽を描いた
肉筆画（更風筆・作者詳細不詳）と雑誌の記事を展示しております。肉筆画は相当
枚数現存しておりますが四季に応じた姿を描いており、1年以上この地に滞在して描
いたものと思われます。

中野忠太郎没後は収集した盆栽は散逸し、残念ながら現在は残っておりません。